

2023（令和5）年度

目白大学短期大学部外部評価委員会 報告書

2023年11月4日

目白大学短期大学部

プログラム

1. 開会
2. 学長挨拶
3. 出席者自己紹介
4. 議事進行
5. 閉会

外部評価委員会委員

敬称略、2022年11月4日現在

氏名	所属・肩書	*1
吉田 直子	学校法人目白学園 目白研心中学校・高等学校 校長	1号
内田 吉彦	有限会社芝榮太樓 社長	2号
峰尾 隼人	株式会社 Criacao (クリアソ) クラブ事業部 競技企画・運営室 室長	3号
谷口 俊顕	新宿区立落合第二地域センター 管理運営委員会会長 (上落合西町 会長)	3号
矢口 雅子	目白大学短期大学部校友会 会長	4号
岩倉 正枝	株式会社クレセントアイズ 代表取締役会長	4号
入江 祐介	社会福祉法人パール 常務理事 特別養護老人ホーム パール代官山 施設長	5号

*1 目白大学短期大学部外部評価委員会規程第3条の号に合致した者

2023年度 目白大学短期大学部外部評価委員会 議事概要

【開催概要】

開催日	2023（令和5）年11月4日（土）	
時間	13：00～14：40	
形式	Zoom ミーティングによる遠隔会議	
外部評価委員 出席者	吉田 直子	大学・高等学校等の教育機関の教職員
	谷口 俊顕	地域の関係者・本学参画の地域活動の関係者
	矢口 雅子	本学卒業者
	入江 祐介	本学に関して広く・高い見識を有する者
目白大学短期大学部 出席者	山田 隆文	学長
	小松 由美	副学長（司会進行）
	伊藤 浩正	製菓学科長
	上岡 史郎	ビジネス社会学科長
	内橋 賢二	歯科衛生学科長
	中野 恵美子	学務副部長（教務担当）
	佐藤 昌史	学務副部長（進路担当）
小島 洋介	大学企画室（事務局担当）	

*欠席者（3名）からは、事前に別途書面にて回答を頂いている。

【議 題】

1. 開会

山田学長より、本学の状況について説明があり、忌憚のない意見をいただきたいとの説明があった。続いて、外部評価委員の皆様より、名簿順に自己紹介をいただき、次に、大学側出席者の自己紹介を行った。

2. 2022年度自己点検評価報告書について

「教育」「学生募集」「研究」「学生指導」「その他」の分野の順に、事前に書面で回答のあった内容を各項目の冒頭で読み上げた後、外部評価委員に意見・質問を求めた。

(1) 教育について

～委員からの評価・意見～

①コロナ禍を経ての学生のコミュニケーション力

- ・対面でのコミュニケーション力はコロナ禍後にはますます必要になっていると感じている。
- ・実習受け入れ時のオリエンテーションでは質問の手が挙がらない。コロナ禍で他人と話す機会がそもそも少なかったのではないかと感じているので、事前に質問を受け付けるなど工夫をしている。学生たちは実習では積極的にコミュニケーションをとっている。コロナ禍の3年間を取り戻すように頑張ってもらいたいし、短大にはそのような機会を授業で与えてほしいと思う。
- ・地域の住民として学生とのかかわりは通学路での様子を見かけるぐらいであるが、活発にコミュニケーションをとっているように思うし、大変良いと感じている。
- ・学園祭で短大生と触れ合い、素晴らしい対応を受けた。マナーも非常に良く大変感銘を受けた。教職員に対しては甘えがあるのかもしれないが、外部の人に対しては、素晴らしい対応が出来るのではないかと感じた。

②教育面、カリキュラムについて

- ・現在、中高では「総合的な探求の時間」が組み込まれており生徒全員が自分の興味関心を深めて調べ、プレゼンテーションを行うという授業をしている。個々の教員の担当科目や趣味を含めた詳しい分野についての情報を生徒に共有することで、生徒がリソースとしてその情報を活用し、学びを深めている。

③現場での情報機器の利用状況について

- ・福祉の現場は全て ICT 化を行っており、紙は廃止するという流れになっている。職員には iPad を渡し、訪問看護などでも利用者の方との対応記録などは事務所に戻ってから入力するのではなく、iPad を利用して現場ですべて完結するようにしている。小学校からギガスクール構想が行われている影響もあり、自分の子どもを見ていると私たち以上に情報機器を使いこなしているのではないかと感じている。創意工夫をして大学でもその対応を進めていくべきだと思う。

《ご意見を受けての補足説明》

- ・ビジネス社会学科では他学科に先駆けて今年度から BYOD を導入した。福祉や医療の現場でも情報機器が活用されていることを伺い、他学科においても今後導入を検討する必要があると感じる。

(2) 「学生募集」について

～委員からの評価・意見～

- ・高校生は就職先や取得できる資格といった「出口」を重視して志望校を良く調べている印象がある。また、本学がグローバル教育に強い学校である為なのかもしれないが、「必ず留学に行ける」「留学する国が選べる」といったことも話題になっている。物価高騰や円安といった昨今の経済事情から、留学志向は低くなっているかと思っていたが決してそんなことはなく、短期留学プログラムには予想の倍の希望者が集まっている。

《ご意見を受けての補足説明》

- ・短大の留学プログラムである「スタディー・アブロード」は語学研修と国際交流を目的にしたものだが、参加者がなかなか集まらない。金銭面の負担が大きい影響ではないかと考えている。
- ・訪問国を近隣にするなど、なるべく負担がかからない様に「スタディー・アブロード」を計画している。若いうちに海外を経験するという事は勉学の面だけでなく非常に大事だと考えている。
- ・最近の学生は、いわゆる観光旅行しかしていないという印象もある。
- ・「海外の状況を教える」「留学のやり方を教える」といった主旨の講座も必要なのかと思っている。また、最近の学生はタテの関係が弱いために、コミュニケーション力が育まれる機会が少ないのかもしれないと思う。学生の可能性をどのように育てて送り出すのかを工夫したい。

(3) 「研究」について

～委員からの評価・意見～

- ・教育とともに研究を行うのは各先生方の負担がとて多いように感じる。科研費の申請が少ないという説明も聞いたが、学園に研究しやすい環境づくりを求め、先生方には余裕をもって研究をしてほしいと思う。

《ご意見を受けての補足説明》

- ・「歯科衛生学科は教員数が不足しているとの話があったが、その理由は？」
⇒ ・ 様々な事情があるが、歯科衛生士はその多くが専門学校で養成されてきたので、学士号、修士号をもった歯科衛生士がそもそも少ないという実情がある。
・ 人材不足については、かつて看護学生も専門学校にて養成されており、その後大学で養成されることが多くなった。その際には同じようなことが起こっていた。
- ・ 学園から研究費は支給されており、若手研究者のために科研費を申請するための研究費や、採択されなかった場合のフォローアップの研究費などが支給される制度がある。短大は実務家教員が多いため、研究を行うことに対してハードルが高いのではないかと考えている。サポート体制を強めたいと考えている。

(4) 「学生指導」について

～委員からの評価・意見～

- ・学生の授業にのぞむ着席の姿勢などが悪く、もっと厳しく指導してほしい。
- ・専門職を志す学生が多くいると思うが、短大で学んだ専門性を発揮する前提として人間力が大事だと考えている。自組織の職員研修では「人間力向上」「当たり前の実践」を繰り返しテーマに取り上げている。また、多職種連携を行うにはマネジメント力も大事だと考えているが、それにはまず相手を認め、尊重した上でどのように協力・連携していくかという事が重要であり、短大でも教えていただきたい。
- ・マナーや他者への敬意といった点は、短大に進学して初めて問題になるのではなく、中高やそれ以前からの教育の基礎が十分でないためであろうと思っている。怒られ慣れていないというのが今の学生の傾向だと思うが、指導のやり方を工夫することで学生に伝えられるのではないかと思う。
- ・目白学園が 100 周年を迎えて様々な活動を行う中で、学校への帰属意識が芽生えたと生徒の顔つきや生活態度が変わってきていると感じている。学生指導においてはそうした点も意識し、自己肯定感を高める工夫をするとよいのではないか。

《ご意見を受けての補足説明》

- ・各学年で学生の雰囲気は異なると思うが、「相手の立場に立って思いやりのある行動をする」ことを重視してマナーを教えている。
- ・非常勤講師の先生方には授業で学生を熱心に指導していただいているが、より気を引き締めて教育しなければならないと感じた。
- ・インターンシップの中では教員が学生を丁寧に指導していると評価をいただいたが、一方で手をかけすぎて学生の自主性を阻害している部分もあるのではないかと考えた。
- ・国家試験の学内受験申込みが締切までに半分しか集まらないなど提出物の未提出は普段から多く、指導に大変苦慮している。医療人としての意識が低いとも感じている。
- ・日常の言動を見ると、学生たちの他者への敬意が足りないと感じている。指導が行き届いていないと感じているので努力を続けたい。
- ・自己点検評価年次報告書に、筆記試験の結果、7割が再試験との記載があるが、再試験率が高いのはなぜなのか？
⇒・高校までと違い、短大では筆記試験の得点が6割を越えなければ合格にならないと再試験の対象となるが、コロナ禍の高校生活で筆記試験の経験がほとんどないことも影響していると思う。コミュニケーション力はインターンシップや実習で初めて厳しく学んでいる状況なのではないかとも思っている。
- ・学生指導については様々な問題があるが、学生に話を聞くと、専門学校の方の指導が厳しいから短期大学部を選んだという学生が多い。親しさと厳しさのけじめをしっかりとつけられれば良いが、なかなか困難であると感じている。

(5) 「社会貢献」について

～委員からの評価・意見～

- ・目白学園として社会貢献・地域貢献へ取り組む意識は高いと感じるが、学生が自ら主体的に活動する土台を短大として形成できるとより良い。
- ・歯科衛生学科には、地域に対して出前講義を昨年は3回してもらい、多くの受講者が集まり大変好評であった。もっと多く地域とのかかわりがあるとよいと思う。
- ・企業も地域があってこそ運営できていると思っており、日頃お世話になっている地域へ還元したいと考えている。楽しく地域とタイアップしていくことが大事だと思うし、人間力を高める良い機会にもなると考えている。
- ・地域の小・中学校の家庭科クラブなどと連携するというのも良いかと思う。また帰属意識という点でいえば、かつての目白短大は就職実績も非常に高く、入学希望者も大変多かったのが学生の帰属意識が高かったと感じている。目白に限らず自分に自信が持てない学生が今は多いと思うので、その点を意識することが大事ではないかを感じる。

3. 閉会

山田学長より、外部評価委員の皆様へ感謝を伝え、閉会した。

以 上